

構造物対策か、非構造物対策か、それが問題だ！ ⇒ SABOにはどちらも大切なんです！

(一財)砂防・地すべり技術センター 企画部 国際課

当センターが国際協力機構筑波センター（JICA筑波）から受託している「土砂災害リスク削減」研修が、4回目となる今年も6月3日から同26日まで実施されました。今回は、ホンジュラス、フィリピン、ネパール、タイから各1名、インドネシアから3名の5か国7名の研修員が、経験豊富な講師の講義や演習を受講し、日光での砂防施設と地域発展への貢献、住宅地での斜面保全への神奈川県の対応等の見学を行いました。また、今回は昨年の研修員からのフィードバックを受けて、研修期間を3日延長し、発災後の調査データの収集処理や立体模型を使った避難経路検討ワークショップの拡充など内容の充実を図りました。最終日のJICA筑波による評価会では、研修員やJICA筑波から高い評価を得ることができました。

改めましてご指導いただいた講師や見学先の皆様に感謝申し上げます。

さて、評価会でいつも話題になるのが、標題の問題です。我々としてはJICAの方針である「事前の投資による構造物対策推進」や非構造物対策の現実的なニーズ等

を踏まえた現在の研修内容が妥当なものと考えています。しかしながら、JICAの支援による砂防施設建設プロジェクトから参加した研修員の関心は構造物対策です。一方、警戒避難を所管する防災担当省庁やこれから土砂災害対策に取り組む国の研修員は、何とか非構造物対策で効果を上げようと考えます。せっかくなので、この研修で学んだ構造物、非構造物対策を帰国後、関係機関とシェアしてほしいのですが、日本以上に縦割りの社会では困難なようです。それでもJICA筑波もSTCもシェアすることを推奨していきます。今回インドネシアでは帰国後早速トライしたものの叶わず、フィリピンの研修員は「帰国後シェアする」と言ってくれましたが…?!また、ネパールの研修員は別の視点から、発災後の調査とデータ収集に意欲を示していました。帰国後の活動と成果について、これまでの研修員も含め尋ねてみたいと思っております。

今後もニーズやフィードバックを踏まえて研修内容について見直し、世界の土砂災害による被害の低減に向けて、取り組んでまいります。



国土交通省砂防部長表敬(6月4日)



日光での砂防事業見学(6月7日)



地図での避難経路検討(6月14日)



横浜での斜面保全工事見学(6月17日)